

## ITUAJより

### 編集後記

タイのKMITL (モンクット王ラカバン工科大学) は、ASEAN域内でもトップレベルの工学系高等教育機関として知られています。その名がタイにおける「科学技術の父」といわれるモンクット王 (ラマ4世: 1851-1868) に由来するこの大学は、その誕生から今まで日本との間で交流が続いています。2020年8月24日には、その前身であるノンタブリ電気通信訓練センター設立に関する日本とタイの政府間技術協力協定の調印から60周年を迎えます。

今回の特集は、日本との国際協力により設立されたノンタブリ電気通信訓練センターが総合的工科大学へと成長する過程、東南アジア地域におけるCenter of Excellenceとなるためのプロジェクト「情報通信技術研究センター (ReCCIT)」計画について提案から立ち上げ・運用を経て大きな成果をあげて終了するまでの取組み、そして、NICTとの共同研究の下に本年設置された電離圏観測用VHFレーダ等、KMITLの発展過程と日タイ間の技術協力を様々な視点から解説いただいております。ぜひご一読ください。

## ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら [https://www.ituaj.jp/?page\\_id=793](https://www.ituaj.jp/?page_id=793)

## 編集委員

- |     |       |                  |
|-----|-------|------------------|
| 委員長 | 亀山 渉  | 早稲田大学            |
| 委員  | 山口 典史 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 天野 佑基 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 伊藤 未帆 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 羽多野一磨 | 総務省 総合通信基盤局      |
| 〃   | 成瀬 由紀 | 国立研究開発法人情報通信研究機構 |
| 〃   | 荒木 則幸 | 日本電信電話株式会社       |
| 〃   | 中山 智美 | KDDI株式会社         |
| 〃   | 福本 史郎 | ソフトバンク株式会社       |
| 〃   | 熊丸 和宏 | 日本放送協会           |
| 〃   | 山口 淳郎 | 一般社団法人日本民間放送連盟   |
| 〃   | 安原 正晴 | 通信電線線材協会         |
| 〃   | 中兼 晴香 | パナソニック株式会社       |
| 〃   | 牧野 真也 | 三菱電機株式会社         |
| 〃   | 東 充宏  | 富士通株式会社          |
| 〃   | 飯村 優子 | ソニー株式会社          |
| 〃   | 江川 尚志 | 日本電気株式会社         |
| 〃   | 中平 佳裕 | 沖電気工業株式会社        |
| 〃   | 小川 健一 | 株式会社日立製作所        |
| 〃   | 金子 麻衣 | 一般社団法人情報通信技術委員会  |
| 〃   | 杉林 聖  | 一般社団法人電波産業会      |
| 顧問  | 齊藤 忠夫 | 一般社団法人ICT-ISAC   |
| 〃   | 橋本 明  | 株式会社NTTドコモ       |
| 〃   | 田中 良明 | 早稲田大学            |

## 編集委員より

### コロナ禍で思ったこと

KDDI株式会社

なかやま さとみ  
中山 智美



一般的に、たとえそれが喜ばしいものであったとしても現状から「変化」することに対して人は潜在的に心の抵抗を感じ、しばしば判断を誤る原因になるそうです。

新型コロナ禍による生活の制限や様々な心配事のために多くの人が望まない変化を強いられることになりました。病气そのものを心配すると同時に会社や学校に行く、スポーツ観戦や旅行に行く、体調が悪ければ病院に行く等、普通のことのできないストレスと終わりの見えない漠然とした不安の中で潜在的どころか顕著に心の抵抗を感じた方が多いかと思います。

この新型コロナウイルス感染拡大は「データの世紀」に入った人類が初めて経験するパンデミックであり、病気の感染被害だけでなくデータが二次被害を増幅する情報パンデミックでもあると訴えている記事がありました。

東日本大震災や近年の大型台風発生時には従来のメディアにはない強みを発揮する情報共有ツールとして再認識されたSNS等も、悪意を持ったデマだけでなく、善意から発信された情報であっても拡散されるうちに「心の抵抗」である不安な心理から各種バイアスがかかり、結果的に情報の氾濫が物の買い占めや一部の人々への差別や攻撃等の社会的混乱を引き起こしました。

誰でも比較的気軽に情報を共有し合えるSNSは現代の利器ではあるものの、技術やツールの進歩に付随する「情報汚染」を克服する知恵を人類は問われていると記事では結ばれており、本当にその通りだな、と考えさせられました。

ネットの世界の情報は玉石混合、本物の情報を見極める力が重要ということでは従来からよく目にする話ですが、非常時下では情報の冷静な取捨選択はなかなか難しいことかもしれません。必要な情報は何なのか、ということは人それぞれです。

遠くない未来では人工知能がさらに発展して、人が置かれた状況の変化を察して、移り変わる感情に適切に寄り添うサポートまでできるようになるのかもしれませんが。

そんな技術が生まれたら嬉しいような、怖いような……。

## ITUジャーナル

Vol.50 No.6 2020年6月1日発行/毎月1回1日発行

発行人 南 俊行  
一般財団法人日本ITU協会  
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11  
BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 岸本淳一、大野かおり、石田直子

編集協力 株式会社クリエイト・クルーズ

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会